

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 13 年 3 月 調査結果 —

(平成 13 年 4 月 2 日)

○調査期間：平成 13 年 3 月 19 日～26 日

○調査対象：全国の 394 商工会議所が 2657 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 392 製造業 644 卸売業 244
小売業 762 サービス業 615

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (DI 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ DI 値について

DI 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 03-3283-7844 / 7836
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成 13 年 3 月 調査結果のポイント】

業況の悪化傾向続く。強まる先行き不透明感

○ 3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、製造業、卸売業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲45.8）よりマイナス幅が2.3ポイント拡大して▲48.1となった。昨年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は概ね横ばい傾向で推移したが、10月以降6ヵ月連続してマイナス幅が拡大し、平成11年3月以来の低水準となっている。業況の悪化傾向が強まっており、地域経済や足元の景況に対する不透明感も深まっている。

建設業では、引き続き「公共工事、民間工事ともに発注少なく、受注争奪戦が激化」（一般工事）、「支払条件が悪化し、採算が厳しい」（一般工事）、「住宅着工件数は前年比85%で、本格的な不況になってきている」（建築工事）など、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、新年度についても、公共工事の新年度予算の早期発注を期待する声がある一方で、地方自治体における公共工事予算の減額により「新年度の発注は、ほとんど期待できない」（一般工事）との声も寄せられている。製造業では、昨年11月以降、各DI値において悪化傾向が一貫して続いており、「半導体関連は昨年10月から後退。発注キャンセルも出てきており、最悪の状態。受注減のため4月以降に不安」（一般産業用機械）、「今まで忙しかったところも採算性が悪くなってきた」（金属加工機械）、「受注減少。長期化の心配」（電子部品）、「春夏物の発注遅れと小ロット化が目立つ」（ニット生地）、「受注減・採算悪化から廃業の事業所も出ている」（輸送用機器）、「3月になって急激に売上が減少し、また大幅なコストダウン要請が来ており、業況は相当悪化」（自動車・附属品）、「発注元の安値輸入品へのシフトが進み、生産水準は一段の引下げを余儀なくされている」（織物外衣）などの声も寄せられている。卸売業では、「売上の落ち込みが激しく、歯止めが利かない」（食料・飲料）、「大型店が増え、メーカーとの直接取引の増加により、大変厳しい状況」（総合卸）、「売れ行き不振のため仕入調整を実施」（繊維品）、「仕入単価下落が売上高減少に直結し、採算悪化となっている」（農畜産水産物）など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。小売業では、引き続き「客数、客単価ともに減少し、回復の見込みがつかない」（商店街）、「先月に引き続き気温が上がらず、春物衣料は苦戦」（百貨店）、「百元ショップや郊外量販店へ消費者が流出し、売上減少」（商店街）などの厳しい声も寄せられている。その一方で、4月からの家電リサイクル法施行直前の駆け込み需要により売上増との声も多いが、同時に4月以降の反動減が懸念材料となっている。サービス業では、「会社関係の需要がなく厳しい状況」（旅館）、「宴会部門の競争激化で収益性も厳しい」（旅館）、「客数の伸び悩みに加え客単価も減少」（食堂・レストラン）、「送別会シーズンの予約も低調、今後期待できない」（食堂・レストラン）、「公共工事削減により建設資材輸送が大幅減、また引越し作業等も減少」（運輸サービス）といった声も引き続き多い一方で、「スポーツイベントの開催や近隣工場の改装工事にともなう関係業者の利用により、久しぶりににぎわった」（旅館）との声や、「今後行楽シーズンに期待」（一般飲食店、旅館）といった指摘も寄せられている。

売上面では、製造業、建設業および卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全業種合計の売上DIはマイナス幅が0.2ポイント拡大して▲42.5と、5ヵ月連続の拡大となった。採算面では、卸売業、製造業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全業種合計の採算DIはマイナス幅が1.4ポイント拡大して▲44.5と、2ヵ月連続の拡大となった。

○ 向こう3ヵ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲41.7と、昨年同時期の先行き見通し（▲24.6）に比べて極めて厳しい見方となっている。

○ 景気に関する声、当面する問題としては、新年度の公共工事、個人消費、民間設

備投資の動向についての関心が高い。

【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、製造業、卸売業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、前月水準（▲45.8）よりマイナス幅が2.3ポイント拡大して▲48.1と、平成11年3月以来の水準となった。昨年3月に大幅な（7.2ポイント）マイナス幅縮小が見られた後は概ね横ばい傾向で推移したが、10月以降6ヵ月連続してマイナス幅が拡大した。中小企業の景況には、低迷感がさらに強まっており、地域経済や足元の景況感は引き続き厳しい状況にある。

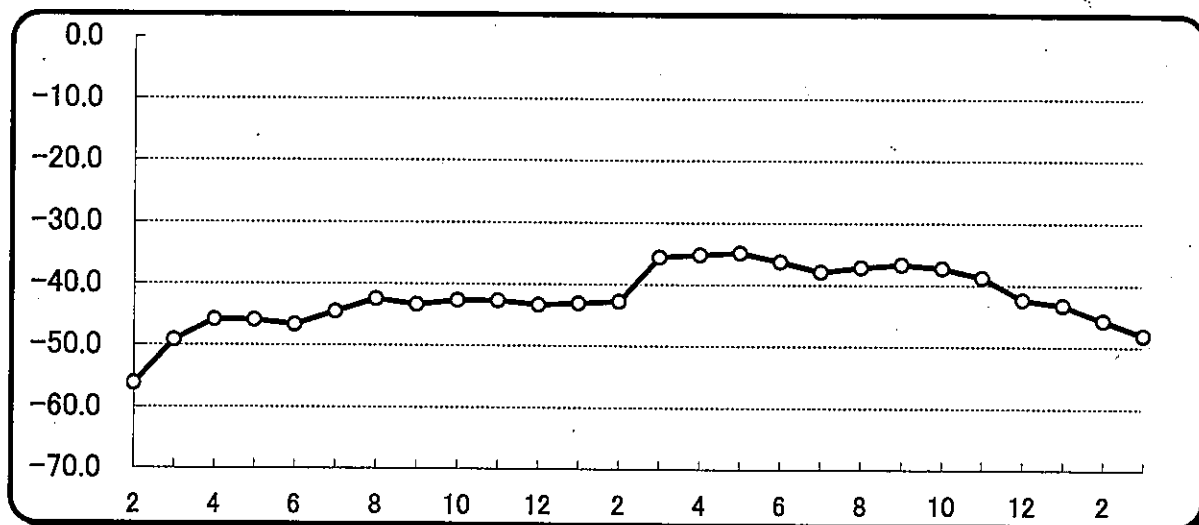
○ 向こう3ヵ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲41.7と、昨年同時期の先行き見通し（▲24.6）に比べて極めて厳しい見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	12年 10月	11月	12月	13年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲37.3	▲38.8	▲42.4	▲43.3	▲45.8	▲48.1	▲41.7 (▲24.6)
建設	▲49.6	▲50.3	▲58.0	▲57.5	▲56.7	▲60.0	▲52.4 (▲38.4)
製造	▲20.4	▲23.9	▲28.3	▲31.0	▲38.0	▲44.2	▲43.3 (▲17.7)
卸売	▲41.5	▲47.2	▲44.9	▲45.6	▲48.8	▲52.8	▲43.6 (▲26.0)
小売	▲46.9	▲46.9	▲48.9	▲48.0	▲50.3	▲50.1	▲41.1 (▲28.0)
サービス	▲34.2	▲33.7	▲38.4	▲40.3	▲40.2	▲39.6	▲32.5 (▲17.9)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年3月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



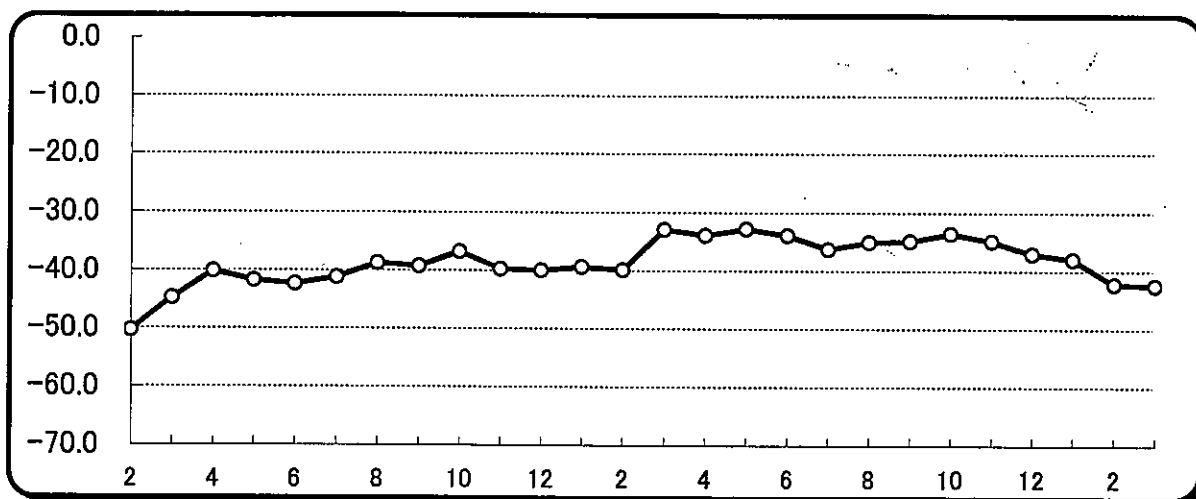
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、製造業、建設業および卸売業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全業種合計の売上DIはマイナス幅が0.2ポイント拡大して▲42.5と、5ヵ月連続の拡大となった。
- 向こう3ヵ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲32.9と、昨年同時期の先行き見通し（▲19.8）に比べて非常に厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	12年 10月	11月	12月	1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲33.6	▲34.9	▲37.1	▲38.0	▲42.3	▲42.5	▲32.9 (▲19.8)
建設	▲44.2	▲48.5	▲50.2	▲47.6	▲52.5	▲53.5	▲49.1 (▲37.6)
製造	▲11.9	▲13.8	▲17.1	▲23.7	▲28.9	▲33.4	▲32.7 (▲12.9)
卸売	▲46.3	▲42.3	▲39.1	▲39.4	▲43.8	▲44.2	▲29.4 (▲15.9)
小売	▲43.9	▲46.6	▲49.6	▲45.9	▲51.0	▲48.5	▲35.6 (▲24.6)
サービス	▲32.4	▲31.2	▲33.9	▲36.6	▲38.7	▲36.6	▲19.4 (▲11.1)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



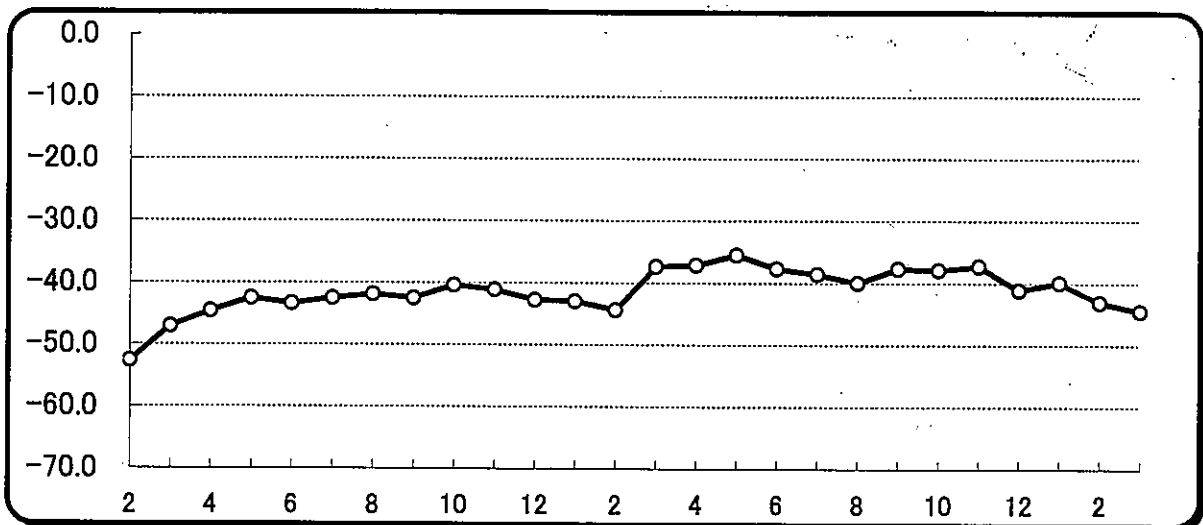
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、卸売業、製造業および建設業でマイナス幅が前月水準に比べて拡大したことから、全業種合計の採算D Iはマイナス幅が1.4ポイント拡大して▲44.5と、2ヵ月連続の拡大となった。
- 向こう3ヵ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲34.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲24.7)に比べてやや厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	12年 10月	11月	12月	13年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲ 37.9	▲ 37.3	▲ 41.1	▲ 39.9	▲ 43.1	▲ 44.5	▲ 34.4 (▲ 24.7)
建設	▲ 55.1	▲ 51.9	▲ 58.0	▲ 53.8	▲ 57.8	▲ 59.4	▲ 51.8 (▲ 40.6)
製造	▲ 26.3	▲ 26.7	▲ 30.1	▲ 33.6	▲ 38.8	▲ 42.5	▲ 35.2 (▲ 21.2)
卸売	▲ 45.7	▲ 38.0	▲ 41.0	▲ 36.3	▲ 38.9	▲ 46.6	▲ 30.1 (▲ 23.7)
小売	▲ 39.0	▲ 41.6	▲ 46.8	▲ 44.2	▲ 46.3	▲ 44.2	▲ 33.5 (▲ 27.0)
サービス	▲ 34.7	▲ 33.2	▲ 34.9	▲ 33.2	▲ 35.5	▲ 35.5	▲ 24.1 (▲ 15.1)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りDI (前年同月比) の推移

※平成12年7月期から調査実施

	12年 10月	11月	12月	13年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	▲ 25.7	▲ 25.2	▲ 28.5	▲ 26.8	▲ 27.9	▲ 30.3	▲ 27.1
建設	▲ 32.4	▲ 32.1	▲ 38.3	▲ 34.7	▲ 34.4	▲ 35.9	▲ 34.4
製造	▲ 22.1	▲ 20.8	▲ 27.6	▲ 24.5	▲ 26.9	▲ 30.7	▲ 28.5
卸売	▲ 21.3	▲ 23.1	▲ 25.2	▲ 20.9	▲ 23.7	▲ 25.4	▲ 23.4
小売	▲ 26.1	▲ 27.4	▲ 28.9	▲ 28.5	▲ 28.8	▲ 29.0	▲ 26.3
サービス	▲ 26.6	▲ 23.5	▲ 23.1	▲ 24.3	▲ 24.7	▲ 29.5	▲ 23.2

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比DI】全業種で悪化超感強まる。

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	12年 10月	11月	12月	13年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	0.4	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 2.1	▲ 1.7	0.3	0.2 (▲ 3.0)
建設	0.0	2.1	▲ 1.5	▲ 3.5	▲ 4.6	0.0	▲ 1.1 (▲ 5.0)
製造	▲ 3.6	▲ 6.0	▲ 4.9	▲ 5.6	▲ 4.4	▲ 7.8	▲ 5.8 (▲ 7.7)
卸売	12.8	4.3	7.1	6.3	1.2	4.3	6.8 (4.1)
小売	4.6	8.0	6.8	4.8	6.4	8.5	7.7 (1.6)
サービス	▲ 5.1	▲ 7.8	▲ 6.1	▲ 9.1	▲ 7.8	▲ 2.3	▲ 4.4 (▲ 5.3)

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比DI】製造業を除く全業種で下落超感強まる。

【先行き見通しDI】全業種で、昨年同時期に比べて下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	12年 10月	11月	12月	13年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	▲ 9.1	▲ 9.5	▲ 11.0	▲ 10.6	▲ 11.1	▲ 12.1	▲ 13.4 (▲ 10.2)
建設	▲ 20.9	▲ 20.6	▲ 20.9	▲ 22.6	▲ 22.4	▲ 22.5	▲ 24.3 (▲ 21.7)
製造	▲ 9.1	▲ 10.4	▲ 13.0	▲ 10.0	▲ 11.2	▲ 16.1	▲ 14.8 (▲ 9.0)
卸売	▲ 11.6	▲ 9.2	▲ 10.9	▲ 15.0	▲ 19.1	▲ 13.6	▲ 18.2 (▲ 14.8)
小売	▲ 6.6	▲ 5.4	▲ 6.4	▲ 8.6	▲ 6.0	▲ 6.5	▲ 10.3 (▲ 7.7)
サービス	▲ 3.3	▲ 5.7	▲ 7.7	▲ 3.9	▲ 6.2	▲ 6.7	▲ 6.1 (▲ 4.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業を除く全業種で過剰超感強まる。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成13年3月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「堅調な自動車販売を受けて、揺るやかな回復が続いている」（豊橋・自動車、附属品製造）、「今年に入り荷動きが活発化し、3ヵ月連続で売上アップ」（倉敷・農畜産水産物卸）との声や、今後の行楽シーズンに期待を寄せているとの飲食店や旅館からの声がある一方で、先行きの発注等についての不透明感の指摘が多く寄せられている。建設業からは、「新年度の公共工事の発注については、ほとんど期待出来ない」（尾道・一般工事）、「住宅着工件数は前年比85%で、本格的な不況になってきている。毎年3月になると活気づいてくるのだが、今年は先の見通しが立たない状況」（帯広・建築工事）、「来月はもっと仕事が減りそう」（古河・電気工事）などの声が寄せられている。製造業からは、「半導体関連については、昨年10月より後退。発注キャンセルも出てきており、最悪の状態。受注減のため4月以降に不安」（焼津・一般産業用機械）、「行政の需要が急激に低下している」（宮崎・印刷業）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業からは、消費動向好転の兆しがないとの声が、またサービス業からは、旅館や飲食店において、団体客の予約が少ないなどの声が寄せられている。

○ 採算悪化

建設業からは、「公共、民間工事共に発注少なく、受注争奪戦激化。採算も更に悪化」（二本松・一般工事）、「支払条件が悪化し、採算が厳しい」（塩尻・一般工事）、といった声が寄せられている。製造業からは、「採算性のない仕事をやらざるを得ず、1年前より厳しい状況となっている」（川崎・鉄素形材）、「売上、採算とも低調であり、先行きは不透明で今後の見通しも厳しい。仕事があっても、取引先の値引要求が強く採算割れになる」（赤穂・金属加工機械）との声が寄せられている。さらに、卸売業・小売業・サービス業についても、「仕入れ単価下落が売上高減少に直結し、採算悪化が生じている」（立川・農畜産水産物卸）、「宴会部門の競争激化で、収益性も厳しい状況」（檀原・旅館）など、採算の悪化を訴える声が多く寄せられている。

○ 家電リサイクル法

本年4月1日から家電リサイクル法が施行され、4月以降は、消費者が対象家電製品（エアコン・テレビ・冷蔵庫・洗濯機）を購入する際にリサイクル費用を上乗せして支払うことになるため、今月は各地の小売業から、同法施行直前の駆け込み需要により売上が好調との声が多く寄せられた。しかしその一方で、4月の反動減が懸念されている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年 1月	先行き不透明感	競争激化	豪雪・寒波の影響
13年 2月	採算悪化	先行き不透明感	
13年 3月	先行き不透明感	採算悪化	家電リサイクル法

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D1とも前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。引き続き「公共工事、民間工事ともに発注少なく、受注争奪戦が激化」(一般工事)、「支払条件が悪化し、採算が厳しい」(一般工事)、「住宅着工件数は前年比85%で、本格的な不況になってきている」(建築工事)など、厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。また、新年度についても、公共工事の新年度予算の早期発注を期待する声がある一方で、地方自治体における公共工事予算の減額により「新年度の発注は、ほとんど期待できない」(一般工事)との声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D1とも5ヵ月連続で前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「半導体関連は昨年10月から後退。発注キャンセルも出てきており、最悪の状態。受注減のため4月以降に不安」(一般産業用機械)、「今まで忙しかったところも採算性が悪くなってきた」(金属加工機械)、「受注減少。長期化の心配」(電子部品)、「春夏物の発注遅れと小ロット化が目立つ」(ニット生地)、「受注減・採算悪化から廃業の事業所も出ている」(輸送用機器)、「3月になって急激に売上が減少し、また大幅なコストダウン要請が来ており、業況は相当悪化」(自動車・附属品)、「発注元の安値輸入品へのシフトが進み、生産水準は一段の引下げを余儀なくされている」(織物外衣)などの声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D1は3ヵ月連続、また、採算D1は2ヵ月連続して、それぞれ前月水準に比べてマイナス幅が拡大している。「売上の落ち込みが激しく、歯止めが利かない」(食料・飲料)、「大型店が増え、メーカーとの直接取引の増加により、大変厳しい状況」(総合卸)、「売れ行き不振のため仕入調整を実施」(繊維品)、「仕入単価下落が売上高減少に直結し、採算悪化となっている」(農畜産水産物)など、引き続き厳しい業況を訴える声が多く寄せられている。
小 売	業況・売上・採算D1とも前月のマイナス幅拡大から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。引き続き「客数、客単価ともに減少し、回復の見込みがつかない」(商店街)、「先月に引き続いて気温が上がらず、春物衣料は苦戦」(百貨店)、「百円ショップや郊外量販店へ消費者が流出し、売上減少」(商店街)などの厳しい声が寄せられている。その一方で、4月からの家電リサイクル法施行直前の駆け込み需要により売上増との声も多いが、同時に4月以降の反動減が懸念材料となっている。
サービス	業況・売上D1は前月水準に比べてマイナス幅が縮小し、また採算D1は前月と同水準となっている。「会社関係の需要がなく厳しい状況」(旅館)、「宴会部門の競争激化で収益性も厳しい」(旅館)、「客数の伸び悩みに加え客単価も減少」(食堂・レストラン)、「送別会シーズンの予約も低調、今後期待できない」(食堂・レストラン)、「公共工事削減により建設資材輸送が大幅減、また引越し作業等も減少」(運輸サービス)といった声が引き続き多い一方で、「スポーツイベントの開催や近隣工場の改装工事にとまなう関係業者の利用により、久しぶりににぎわった」(旅館)との声や、「今後行楽シーズンに期待」(一般飲食店、旅館)といった指摘も寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

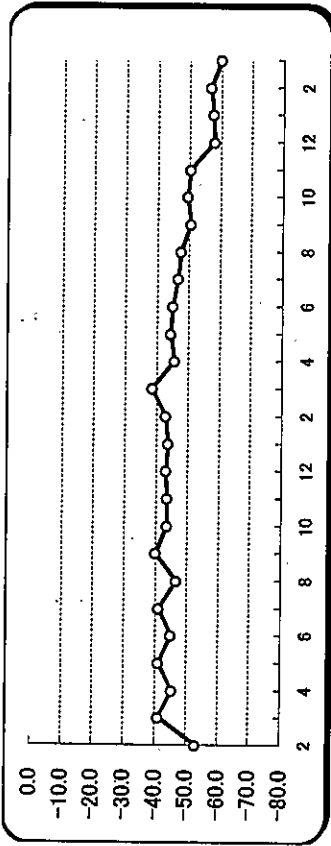
- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、北陸信越、関東、東海、中国、九州の各ブロックで、前月水準に比べてマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（4月～6月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、全ブロックで、昨年同時期の先行き見通しに比べて非常に厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

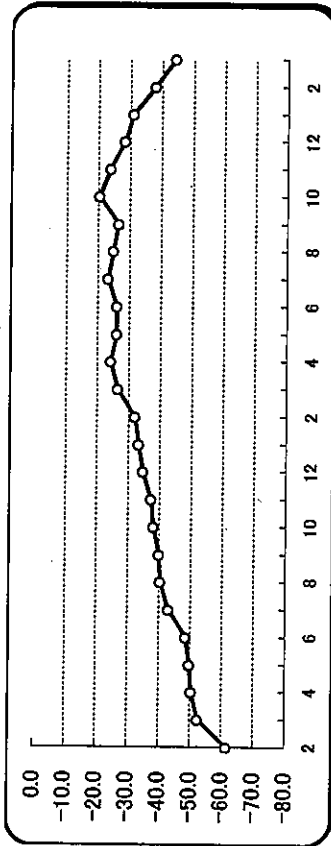
	12年 10月	11月	12月	13年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全 国	▲ 37.3	▲ 38.8	▲ 42.4	▲ 43.3	▲ 45.8	▲ 48.1	▲ 41.7 (▲ 24.6)
北 海 道	▲ 33.1	▲ 35.3	▲ 43.4	▲ 43.1	▲ 40.7	▲ 40.3	▲ 39.5 (▲ 21.4)
東 北	▲ 35.8	▲ 35.0	▲ 39.3	▲ 45.3	▲ 54.8	▲ 53.3	▲ 45.0 (▲ 24.2)
北陸信越	▲ 34.8	▲ 39.7	▲ 42.4	▲ 47.9	▲ 36.4	▲ 45.7	▲ 38.4 (▲ 17.5)
関 東	▲ 35.4	▲ 34.0	▲ 37.8	▲ 41.8	▲ 41.6	▲ 46.9	▲ 35.2 (▲ 19.8)
東 海	▲ 35.3	▲ 40.6	▲ 40.9	▲ 37.0	▲ 45.4	▲ 46.7	▲ 45.3 (▲ 33.5)
近 畿	▲ 41.5	▲ 45.9	▲ 47.3	▲ 43.0	▲ 53.2	▲ 51.5	▲ 44.7 (▲ 31.6)
中 国	▲ 37.4	▲ 39.0	▲ 44.5	▲ 42.8	▲ 45.3	▲ 50.6	▲ 49.7 (▲ 29.1)
四 国	▲ 49.1	▲ 45.7	▲ 48.6	▲ 57.8	▲ 58.6	▲ 51.4	▲ 40.5 (▲ 23.1)
九 州	▲ 37.5	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 39.5	▲ 41.2	▲ 45.8	▲ 44.8 (▲ 24.3)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

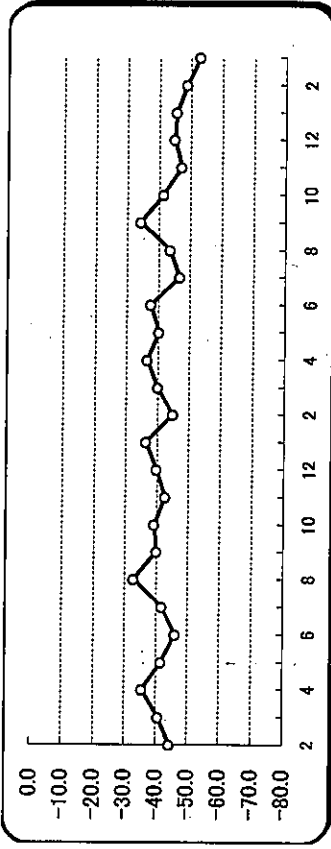
建設業



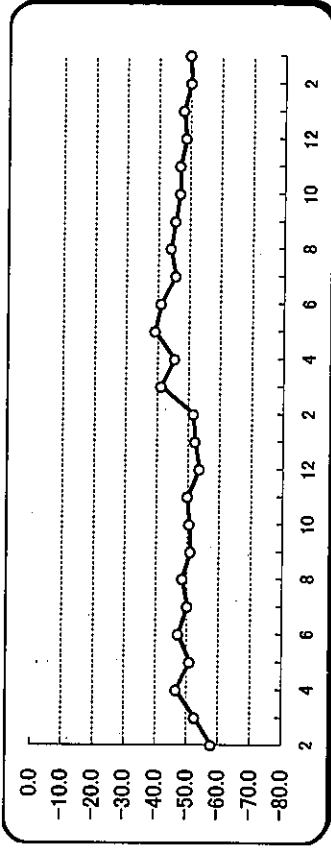
製造業



卸売業



小売業



サービス業

